栄花物語八

り利5
1098
8

宮城県図書館蔵

玉はるる利

きゝ給ふ事ども

[illegible]

[illegible]

[illegible]

万法といそ〜をけく所をも[illegible]伽藍中興法六十四世[illegible]万つの[illegible]
おてて[illegible]のくゝ高こ[illegible]（市）[illegible]きくて二壇之名つゝり海つ[illegible]
うのとて[illegible]ふおてて[illegible]ちくゝ[illegible]万[illegible]にさ[illegible]
ふせを[illegible]のくゝさ[illegible]きかた[illegible]桜[illegible]をつくさせ給う法なふ[illegible]
なとあくゝのとふ[illegible]めきゝ[illegible]（妍子）[illegible]ゝ[illegible]内の中有れの[illegible]
（市）（[illegible]）[illegible]（禎子）[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
（道長）[illegible]（を）[illegible]おてて[illegible]さぬ[illegible]中堂[illegible]十[illegible]の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
おりくゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

教をつくせどもかてこそ正信房きき足房に（複子）一房房このかけ求ふ出
そなへの給をはまをみてこそ法之さ世給ひ（脱信）ふ左右法
入道の若ひとあふふ無動ふ法おとすてと後ら大原ふく（ものせ）
用ふ地を房ふ房さうきれく中学ふ房せ給て二七日籠て
房ひきふを清水させのてとやさ世給ひく何とこ房ふ出ふ
おりけをせてと夢ふ之給ひ無動ふおとてまして（院系）粧信心の
法主にうこれ義をふ之地ひけ法ふ之ひかうふとの給ふ
信（脱信）正房とてふ義はさ之ゆき八命房ふこてをせてヤ給房主は
命房ふ之と蛛一なふ（正）主房と思てこそ行ふ房仏の
ひ主歩ふつふう礼きふりふ房ふ房ふと学之さ世
給ひ主八信（院系）正なとてかくてこそおさめけふ昔ふうふふ
ふと信ぬ有ふまをおはすつきてふ房ふ（おとて）ふ法ふあを
ふふ正法仏をふ世さ房ふ之信之機法の正

房之法給ふ法ふふ学ふく社ふとをきうせのと云（研子）のかふふり
たふ之房ふ世のふふ法ふふく心ふくれ行ふき之ふきに物ふ
之ふけふふ下かくおはいふふさを之ふふ地ふ（脱信）ふ世ふ之
給ぬふと云ふいふきふとふふ（高道女）ふ物とのふく学ふふ房ふ
房一ふ法源ふふけ世ふふふふふふかふふに清ふふふふふ世の
ふふふふ（少系）説（改子）の女法のふとをふふふふふふふふふふ之ふ
世かふふふぬふふとふふふふふふふふふふ

ゆくすゑのこと(柄子)ふぐしたるとき、ある物をけきをかりして
いとゝふくゆたけふ之さうしあるなかに、とふくいてかんと思
この物をせはは、はかなのとけ、ゆ、しのすけのことをうそれとうさて
内侍の、さきを物見えはかりをかしきもかぬさ海ふくに物
りけをくのりうに、ものをかしうをかせあくはかるか
とつるをかやてをはふいをかの面きとるうかの宮八姫(所光)人は
おくれはかるふ女(姫子)さしつる記ぬ出ぬてゆ、ゆ、はけ知とを伊ゆ
ゆをりしかのしのをりかをいまとゆ(嫡子)みゆまけゆやさせをれくうは法
於人(家ふいうなる世知をれを三ふくゆ、ゆ、ゆ、

[illegible]十七日[illegible]百[illegible]月[illegible]
百神の新迎遊りなり世のる出きこのうとてこの廿一日すてしなせ
給へくし常[illegible]とめたる大かぞうより東小松殿者の中あり法[illegible]
のうなの三百ちこるくりけ南東三百八らうはるにて作せのるて
日の初めてくに成[illegible]ふり如ようなりて[illegible]出いて[illegible]
夜の[illegible]ふなりぬ[illegible]
世人仏のこの乃ちきうり中ちて[illegible]
いり九十九神八菩薩の仏すくるか食[illegible]
[illegible]百[illegible]
[illegible]
[illegible]

人のとふ出て世間波（道長）なくて下にはそれ程
うれしきことふくめてまいてあるのりくはふ濃殿万つ世間中院法
うの方三位角つうつ下にて万の俗部かとも万れり主りせうくわさう
なとも下ぬるふ中物の宇角いくき多物るれいつるかりさるくく
寂ざく昭とふくかりのけるとかるくくうとて多（道長）ぬ（これ）ぬ（ぬ）ぬ（ぬ）いと
たうはときこしぬるて必て（わ）ん（と）てあさうにあさせ間ひかんさしは
（寂昭）ひくせうし変いるりきうと世人やめ陽月万若の三（好子）くてたて下せハ毎中
ていと俗りるけふ見てくるいとんくるくはきれくはまるのかせめて
ひて物下ぬりつるるてさ世間て若とのの行くはるは元（さ）ん（ん）てさうんと
ぬりはぬ（ぬ）わの若もいらうとのうの見れくいとんくるうて中めふ
はくるとかりひくて世（ひ）ぬ（ぬ）ひのけのちくるもぬて海ことせさせる
ま八家さると見て七月すよ日かこ家俗むくぬ万ぬて下せ間て
海ぬ世（ぬ）ひやさ世ぬ（ぬ）ひうれて世ふいるくれ万ひて（ひ）くるんなと

人をまぬんのうちすく部ひ（ふ）ひまの若を中ひて下ものこれをくふく
ぬひ万ぬりに孤若のはてうのぬりくぬとふひこひさうし
ものをとるまりるひて（ひ）ぬるうるうて下せて中世ひかとのと和世
万まてくき万世間下せ間うんの（偏）ぬ（ぬ）ひかて下ぬ万中世
ろを物ぬりて万ゆうのこ若ぬけさ世ぬ八ひて中ぬりてこ
海ぬる海世と牧ひて見ふく万ぬ（ぬ）ひくのこ万ぬさる八月ぬ万ぬ月日の万
を三下せのくぬ中若万ぬること若ぬ三ぬりくひくてのこ万ひて
中世ぬ丑（六）ぐうにこうに世ぬひて中海法せさをふくこ三若ての万ひを中
中ぬりの北ぬてふ三ぬさ中世間（ぬ）ぬ（ぬ）世間（ぬ）ぬ（ぬ）万ふ万海ぬうのこ中世ぬる
海ぬそ中ひて若ぬり東（後冬）ぬりは日くに海侵下ぬ中（後る）ぬ（ぬ）（上東）女院ぬうち
かけ世間この中（好子）ぬ（ぬ）ぬ八弘世ぬうち物ぬ八この月ぬ中ぬかふ世間ぬら
万ぬ物を世ぬうちるの八今は中ぬ万ぬ間ぬにぬて下ぬ中ぬもう
さくぬりせるこ八中ぬるこ万ぬ中ぬるこ万ぬ三ぬう万ぬて海ぬう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とにおりて仏まいりしたまへば初めてこそ仏ぶとやさせるに
通七 ゆ
ゆかしくの給へるに仏このはしら音妙
あたのうらふかてこそせもりの上てはぞくをかりの男弱くこそ中させ
のふさてはとなれこそいとあ弱おくのはしりを仏のとくしかな
うなりきわふこそしての弱くなの曉ふ女院にてこそ弱てやくこそ
北のおさ〜ふそもてすに一所こそ
侍子 侍子
六ろりをこそのおそ〜よくいとう出さ物ぬ行くのさはうう高ふ蛛〜う
こそ弱ぬ仏のはそ〜こ世をいさ仏さてとそ弱ぬはを定仏仕者
侍子 侍子
ずてはハ侍るしとかりしらとくはしるのはるべこれうとを
をんをとるく行ヤ弱仏のこれ面仏ふ 十仏 法服せをるく百弁のはのみ
一所のゆふはの余をのさ弱仏をも百年ハのはさせ弱〜なとこふなく
きとこと世の弱仏ふ見ふ
かりはけはしらとも物ふ法華仏のんをふ仏ふうを女ふ
尚女太老のはうれハ法服をを法華と
弱余はこのはとのこんふ〜うてこそいふけをを弱うは日沈も三く仏た
上東 侍子 侍子
の〜せいとはそてうせさ弱のうは女院にこそのちうはそ〜ふはを
侍子 侍子
ら世仏ぬとをはは弱ものはをとをふはうはてふをうきはは中ハをて
かりかてはは月をを弱九月ふ弱ぬをハよるはにふうををてうやすは
はふはををはうてはをうを世弱をてをうはけうはををはけ
侍子 侍子
をはけはをとはうはにふうて祈ふはうはふはは仏のををハははかを
通七 七
て屋さ〜祈ふうさ弱〜ふふ弱はを弱はハ今ハ行ををくすふふ弱
通七 七
ふも者の弱ををうはかをこのはをはふ今ハ行ををくすふふ弱
七
さうはふ衰且をうはは弱仏の維摩仏仕者〜なをふをはをはを
弱はけををて者ふの仏をもはをうはふををうはをはをはは世仏はふりや
侍子 侍子
はう〜きくをて維摩仏仕者世弱ものをはをはをはは世はぬ
侍子 侍子
仏をはをふ弱きはは月日ををふ世弱ふんりはこはをを弱ふはは
侍子 侍子
をを弱ををを弱をを弱ふはは世弱ふはは今ハ行ををはを
ををはををはををはは世弱ふはは今ハ行ををはを
ををはををはををはは世弱ふはは今ハ行ををはを
侍子 侍子
ををはををはををはは世弱ふはは今ハ行ををはを

おとうと有へいはてて方さしかりのけはれ
ゐてとうまとて九月廿九日
暁より北うま南よりて世俗申賞ふくハさうとも
のくにかゆるをうの（道長）おまくんうたとふ物ゐうきゐん殿の来おりてに
申ふらしておりてこの日はつをゆ（九月）ゐとてゐまとをふゆき
日ゐとハ八月廿三日九日ゐ（九月）おりく実日のゐ物ゐゐとゐ
ゐりふれとをてゐゐとをいきゐふきてきこゐ世とゐき申賞ゐ
ゐく前にんゐさ世のてゐはゐゐとのゐえさ世俗ゐゐうゐ物ゐ
う陽禅ゐ九月ゐ廿日にかゐぬゐゐ申陽法ゐ免の傍部ん誉傍部（三陽子）
ゐゐりゐんゐ俗日ゐん申賞ふくんゐうゐゐりゐゐうゐ誉房ゐとふ
ゐゐてゐ物のゐゐうゐゐんとて出ゐゐ前の陽陽暗ゐ宗
おゐて世俗ゐき男ゐ中ゐりゐゐゐその夜おゐふくゐゐゐぬゐとゐ業
おゐてゐ物俗ゐく物ゐゐゐゐれゐとゐをゐとゐふ十四の波ゐゐて
ゐをゐゐゐゐ物ゐゐゐゐれゐゐ波ゐゐて

仮をゐゐてゐゐ化ゐゐうゐゐハまとゐ（ゐ）ゐゐゐとゐ宗ゐくゐの波ゐハ
まゐゐを物ゐふゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐしゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐとゐゐハゐゐてゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐふゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

中さぶらひてとのゐさぶらひ侍らんかたをうかがひまゐりて
うけたまはりてまゐりてうかがひ侍りしかはとのゐ
もとめ給へるにまかりてみ侍りしかはうち侍りておもはるるさまに
おぼえ侍りしかはいかにとおぼしめしたるやうにて
なくなくかたらせ給ふ侍りしかはなほ世をのがれさせ給ふ
べきにはあらねとかくてはかなき世をいとはせ給ふ
ことはいとかしこくかたはらいたくなん侍りしかはとのゐ
もとめ給へるにまかりてみ侍りしかはなほ世をのがれ
させ給ふ侍りしかはいとかしこくかたはらいたくなん
侍りしかはとのゐ(道長)もとめ給へるにまかりてみ侍りしかはなほ
世をのがれさせ給ふ侍りしかはいとかしこくかたはらいたく
なん

はきてもつるかゝ女房さら大納言の中納言殿なとは殿
殿のゝとは殿ゝなるを法門のゆゑとそもしまとえもつまはいと
殿ゝ殿ゝ殿殿ゝ殿殿法とてこゝにはそけちをこはうえまと殿出
さて中宮の宮人の殿ゝせをれくさて中つの殿けるかゝおそてま沢
殿ゝとるかも櫃もこはるかぬるも殿人ゝうはとふゝえてら殿の
殿殿ゝとはいても殿まくゝ殿とくゝ殿殿ゝの殿ゝるゝ殿ゝとて
はまとはゝおそてはさてのこゝ殿ゝとて殿ゝとてゝ殿ゝ殿殿
殿ゝこのそてゝ中殿殿ゝとゝ殿はゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ殿ゝ
殿ゝるとゝとゝゝはさゝふゝゝ殿ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

中車にのせをりてかたいて沈かとこの中にかくしてをりて一昨夜東の
屋りの板敷をはりておくてをりてきるれを内ちかくいみ〜めのとて化
えをのかあ夜のかこうえ〜えもつのかさせぬくに京ふるるこはあるう女房
ちはきぬとも菓や紅葉屋とちうさとうるうるうるの花しきるる程そ
万のくきを浦ひもて傍かれ〜なかはあるうる有松を京ふるるきふ
秋をうりうこうふ屋きうやうるるかくかくかくかきるしうる有松
ふともいえうこそよりぬうこ〜ふ〜ふ〜ふ〜ふ有松女房の衣ぬれ色内ふ〜ふ
ふうふ屋るるのかのかくるのくん志ふうふくふ京ふくえてくる世のぬの
なきことをさ〜ふうふるこいてけくく女房の車を出くりるる
ゆふ京和歌はくを郎しきはふることをうえをきるりけり
とはけ今一人 京紅葉かりしあとをいはとてをのうをを紅ふ京
なとそ人をまはふふくもをりけるふのおくをまをて〜和ふ
りかけりうひをのるふのくふくふくうう足さふ〜かくておふ屋

おきふ〜まはをひろきふのふ〜きうる屋うるる月ふれ所とも
ふりかく思ふはずてうるのれとふふをもうるなるふとふふく
なるの志仏の俗ふも智ふりのてくおなくく京ふるにふの西仏もぬ
のふとふ沈とを見ふうくふ心のさふ悦俗ふ悦ふうふ屋ふふて
今はふふ名ふるく俗ふくかふてせのふかとういみ〜きをを屋ふけるふ
ないのをけふうふ沈ふ心を和さふ人きふ女房かとおりてふれとうはふ和
和ふうふふもけふるふりふ思ふ〜ふ〜ふ〜

つゆふさまなるあさ人をかなしくもかさねうんぬうはうう物しりかとせきをはくさうはまハくとくれてそうぬえさしるこ思えの
ゆゆく思まつと云ふ人ゆうゆ後るもかはうはうおそうかなせ
云ふかとこれつとうまうさうふしの人くハけるふこなきう歳
おうかにくはうふうとそくうゆ中云ふ女房を御つるくやうせ弘ぬる
おとなに云ふるくこそ思ふくしたかつ後ふしとあるうへのかはふ四和て
ゆうまうせ後一思えるるうへるとまくくこ和おそうはゆるとのと
ふゆふうとはゆふうしの後はこふ見くておそうふしかはかは
ふとのとへて杖世そゆしはま一思えの山方にう東えうう山使日こに
すう融春山えうこの女房の袖口ひいるもいと思きこはれ化ゆるの
はとなる山行うはくとみえぬるおとるうき云らるとハ涙ぬしは
おかううとるく五七日のもるせ後ぬまハ日こうはてせぬる五大言弟
の不動尊ゆ後りしたうせるくうとその法をかきはりのけあすてうなきを

法ぬまハ仏道さはけりとてはてにけく極楽にこのこかんさしうりけ
かりしまいきうえ法橋ひとはうう海いるるこのうのなとみ
たうるるる後法房ひとはるるくとこすくうきくかりしふれ
ぬ秋ひこうしるり山法るるハ十月廿八日とはきあさせぬうそれは海ま
乃思ともしてはきけみえそくうあせ弱きるこのふけううし
天災の新世はれ初えんの勢みの涙はこのはうはをれふきこ
て仏弟の為るんとと化きわくく旅婦の父のとはこうう
成こはうる涙ちふるはこのみはるるまこのかくもるくやはるまこ
うあ一年はのとと

いかくこの日まはは在ハいなるるるるうしとハなはてるきれる
とこをはるれとえうき法きそ十八日の月あきふ内信のをけ
若のこ一月をとることなくさはをわまて在をうはいおは趣く
為人の父入と

紫式部

なるあき月の光りをてらし給へ
おもかの光りと
そらの雲よりかくれて若ゆに月そう世のかをそのみえる
五せちの歌
う[illegible]しもみしかりきの[illegible]
なとて若雲くれ[illegible]月もあるよに
かも[illegible]
[illegible]月とはいつの世よりかきくるる花のみて天
かくて七日の日有物せをなとこそつけとひさしの中仏くら
せ[illegible]中なりの中をりに大[illegible]
[illegible]京の家より[illegible]
[illegible]
月[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出ゐてこないてきこゆるをかけさせおきうにて俄ふれ侍れ
まゝとて去年ものゝ様にもおもてあさ沙のさこゝ見さてくこうあ
せおくこゝふ比ものゝ中とないうこゝ白ゐ月ゐ侍せるゝてきうゐ
いてよくけるおもてゐにゐうきう月ゐもてゐ出れ世ゐのさひ角ひ
出堂ゐらゐの出れをゐのゐとをゐ高ひらいとゐるこゝ白てゐ侍きいゐ出ゐ
こゝゐゐゐてゐきれいゐふとのこゝ夜ゐゐてゐゐ世ゐゐふゐく
うゐおゐてゐ世くいとゐうくこゝゐ世ゐ出ゐゐうゐ世ゐゐ
ゐゐうゐさにく物さゐゐきゐ有れゐてゐうゐゐのゐくゐゐて物を
ゐゐきこゝ先さゐゐたのゐけゐゐおゐてゐ夜のゐ如院ゐゐゐ世ゐて
なくく更ゐ世ゐゐゐくゐ通ゐ世ゐゐゐゐのゐゐ世ゐゐゐのゐゐゐぬを
ゐをゐうゐゐゐゐゐゐゐゐゐ世ゐ侍ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐに乗ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
出ゐくゐれゐ出ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

中ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐれゐ出ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

きゝ中納言殿のうへもさぶらひ（師房）みこうみのことの（道長女）（後房）（きこえし）三条のゐんの（花山）
ものをもとゝのへ（調）家ふるまひ（振舞）せ給ふ（給）もてなしてむ（むかへ）るさふわうせ給ふ（法皇）まいとう
ものをもてなしてゐ（居）たまへ（給）るを（を）ぞいかさま（きりの御）
白ゐのもいるまさをかと（師房）家ふやさせ給ふ中納言殿のうへ（北方女）も（道長）いかゝ
なる御ものかくとなくくうもせ給ぬ（威子）殿ふかわるふ中宮出させ給ぬ
いてまゐりて（上東門院）ゐんの（倫子）ものをとくいへうすせ給ぬ（上東門院）ゐんのおとゝ
なとはたゝあるやうにおもてまゐる中宮（威子）はかくまゐる出とて（上東門院）ゐんの
ものをもとゝのへ（調）たまへ（給）るをうれしくおもひ（思）きこえ給ひ（給）
ぬれとこゝろ（心）のうちにおもひ（思）ものをとゝのへ（調）たまへ（給）るを（を）
ものをもてなしてゐ（居）たまへ（給）るをうれしくおもひ（思）きこえ給ひ（給）
ぬ（道長）れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中さ為給さていとく名かてせ給ぬ和田やけ[illegible]山堂にさぬ三百丈
布千端[illegible]通径は[illegible]せ給ふ[illegible]坂の山寿命の為し山通径ふ[illegible]
[illegible]はせ世の[illegible]に[illegible]山[illegible]く[illegible]くこ[illegible]山有[illegible]
乃山堂住せる山者り留ふと見てあくせてれてかてを給ぬかくてサ
八日は[illegible]ぬまハ東京の山留ふ[illegible]
[illegible]ふくおてふ[illegible]東京[illegible]
[illegible]ふ[illegible]いうなり世給あいと[illegible]
[illegible]のうしは[illegible]世ふあくせ[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

ありけるにうせにけるをあるきう三位中将入道
あるべきにはあらねどかかるにいとゝ道長せしるべさせおは
ありなんとて中将よりくに仏名院源のさぶらはるに
海月給てのちきこゝをやきうせなりなんとてもをくうしろめ
なきのこゝろをくるしさにこのしるべ屋
風のふきはてゝをはきさはぎなりしかばなせ
ぬるべきにあらねどもこゝをもとゝまるものは後の世
道長
ゝにはあはんさはらんとてこゝを紀伊とそ上東門院威子
きこゆるくみえさせおはしまさんとなりぬ
けるゝさせおはしまさんとなりぬ
中させおはしまくゝ源敦忠多
ゝ仏の色をうんとゝもちさぶらはるゝ
ゝきうんとゝもさすぶらはるゝ

ぬ末の相うをとゝもさせおはしまさんとゝ紀念仏をゝ
異ゝりてゝはにはみあふらいの名ゝ
ゝりあにこの僧ともゝとなりふ
ゝ尝れゝるゝ
ゝりてゝをゝこゝをぬゝをゝ
ゝけりゝりてゝかゝきゝて
ゝるゝもゝゝゝゝゝゝ
ゝ中ゝ尼ゝ阿弥陀尝れゝ
仏のゝ
ゝ
ゝ

いとゆゑ[illegible]ゆゑ[illegible]ていとゆゑ[illegible]
[illegible]
[illegible]

出させおかれの新加入めいの時、のれてれ城の東のりんてう出させおけんまたりい
多のたとの〜九万二千ばかりすくうをおそれに来るりびせ世界の吐尼
こもんを始めして万あり出てうあれと所こてかるんるれそうまもそうかい
ろう第者で年十二月ごろう病させおて体いろ七日ばよは華遠集年
六十二かあせおけり儀式有れよ夜もくうきふあるくゆくおくけは意
仏れ信者言三年ちひえ長会に如来の横の法性をもていいもやしい
教をうくしうう心の法を中道等師つうあり法性をあ絶しき
ばをらうきふてそかりきれさ法ならをあるうをかうまうことあいるしく
法をあるう〜おさそえ法うあり〜ばうあるいよりあけくあるいさしをつう
なるにいかけおけとをいはけ法のりよ法〜あり浄阪三入滅後
のかうこ悲こさ子白ひれひつきをふるひ摩耶夫人の如よ物語
ゆう〜五百ちうしれる年の法をあるうきふ生不滅の仏そうあるをか
ひかりあ去来をとるれおているけおて六道ふ生のえ

仏かさうはきうあると一こに拾はおこのあに十六字かう法り無
常せうう滅法生滅こ言ぶくもりあるらくその不仏の心かりひ
ひとすあるくら北人まうこう法〜諸り無常ハ大ふの法る知ひこ
あり世ぶう滅法をかひあくの川をとろそんあの永ぶ生滅こ言ハ
法すきれ心をこゆ貧車あり言ぶくあつあらくハ浄ちあるハ相道
の義果也法是世界の貪充きたりてひ不ハ仏主の経論の文也と
ろとこ言ぶ〜法〜諸り無常ハ阿含経の文あり生滅生言ハ大般若経
乃文あり生滅こ言ハ花厳経の文あり言ぶくあいあらくハ後教涅槃
経の言ぶことこ法〜あり〜この娑婆世界ハ移ひ変ぶ不ものあ
法あるうれ位ひ〜如法ちあるとの名行みを五ちるまくきたりか
いしうんやよのくいやとく新とあるいは楽をあるり如るゆ〜
経ふいくあるあきハ入いきハ出るいを経をきこ法ふ
えの五るあのひうあるのきるあるあ法まこ命依よのそんこ

那をとりてくに[illegible]をせうせられすく乗を
うけのくさき根もなく人天きてはひろとをえのこの[illegible]
多くみをえのつ[illegible]かのゆるせうる房のくら[illegible]佛の中教
ゆくとくさい船の中を仏みられさせ給くさうはそのり[illegible]
今は極乗の上和上生の中後とくあのこもりるをいうう[illegible]
うをうけ道の師のとハ伊うきくえとの若とゆせとあるとの初
をとれよしあきハ年北の中師まるれちきうにおてきつまは
なくくおうるく[illegible]常れさ法をもさる(き)ともくのきろや
のつせくくなくあうるくあ那しゆ若の[illegible]あ初之
後の偈とのこてそをうこうつまおくれとをたりのうは[illegible]
うこてを雪山童子身よもかけちとなく人このうなり六道の仏はう
の中なもるくくれいいつけの(れ)とえきこをめ[illegible]ぬるを
口をけまさて身よかるくて晩をすを後をしき侍ふかや

[illegible]

ひつまりて中昔ふるく世給てあ[illegible]あか入る若中年のりるりをもりて
宮き侍給りるもにあをくまるるくまりいさ後き年北のくくしれ
万りり拙とのをりかるを世給て中堂にこるおをて海ぬ行とも言ふ
かるうこうはふ志命内侍をいふ人[illegible]のるる
色を安之身りし

きりこ之雪ふりをけう当後の八露まをしれくらをて法き
ふるこ万りをかの安瓶林の初をとれかをよるるなるて七ふの
入道とのきふ給て身ゝ拙とのいく侍かりきをその紙は後をれ
中堂すくく日れをくら海ふ若るる中をまきを世法見るはきて
まを世はる淑すう若るりはるを中侍大術言れ日ゝ日ろ
万後ーうは[illegible]ぬ風まをて拙をるりゆをてふをてんみ紙
ひきれをるりのこ之さられきハいるふと見ーるうしを
為に中初を[illegible]きるふ北日れよさうるのおをれおを世紙

ありにてもうせおはしまさけるとく娘(りかう子トモ)と行徳信徳
の若めしうまれ給へるとも成ぬうたがふこそ
おろかなり北のくにくらすとの給はせ(ばかり)ばかりは道(ミち)なりとて
ちかつるとおりに法華経を仏教にしたがひ
よみ給へれ母うけ給へ成ぬ性生(しやう)の有相なんとうかゝひ
うらなる文若(後ろ)義孝のおもかげうかぶ和歌
弘法(伊勢)一流相政の中まあくたうと
のうりゝ中まとこの後八月の二十に御
今まゝ中たまは位も四位つきも大納言もうにくもらるき初ゆ
母うけうもの世人いうかゝみゆつうき物の上ゆ世にぬるを
ことかうるとうにうりうりもの
後の中若物をゆゝ家よりゝ中有相ハさまを中年をうて
こうらけ年ゝさうゝ十世のうり物まハとゝろにこひゆえ次(わび)後の中ふ

ゆ我いとかゝる世中とふ世人ゆゆ中(長家)彼ことのかからぬ物のまゝくゝ遠り
ゆえてまゝくとゝうゝ人ゆまゝ次(後)ゆ
ゆ(公信)ふの入道の中とうゝ中(秋信)たまゝきこえ物けり
中(秋信)たまゝ中の面ゝ
物えのこゝ中ゝ雨の雪とも
ゝ世ゆえ物けり中ゝに雨ゝ後ゝ
中ゆけるゝ中ゝ物ゝ中ゝ
ゝゝこゝのゝこれゝゝゝ
ゝ雨ゝゝゝゝゝゝゝ中酒ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]の入道中納言法橋定信を世にあるものの
[illegible]中宮きさきの
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ひけるときに[illegible]
[illegible]給らるゝ[illegible]せ給ふ後の[illegible]
[illegible]
[illegible]

きこえさせおはしまして、御言葉多くおはしますとて、
かの高砂の尼、中納言の
乳母、道長
のうへ、
乳母、道長
とのうへ、法成寺殿
冥途
冥途の苦しみ
ゆゑ、
ゆゑ、
道長
とのうへ、東院
東院
東院
小家
東院女院中宮
冥途
高砂の尼
乳母
乳母
乳母

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
のとうにんまき院の物ゐ[illegible]
このまかりしを[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の為となりぬるを[illegible]若宮代をまつ世なれば[illegible]ぬる事も[illegible]

関白殿

姫宮はさくらゐんの[illegible]ぬらをしうてそ思ふなりけ[illegible]

内大臣殿

はしたくなりぬを思ふきに姫君をもうけのむとのおもかの

中宮大夫俊綱

月人海の龍はるかに[illegible]なるを[illegible]代成

[illegible]まとこれより三ぬの仏[illegible]ものくるの

うきぬ宮ゐを女房白きぬをもさいらるる仏物の[illegible]

[illegible]ゐをこわてゐをうの由又のはかり物よ為資のかきぬ

三宮の御ゐうゐ内ゐを仏はくゐう内の中ゐをとゐ大武二位安俊

の三位上郎ゐとゐれゐりてゐゐ出ふゐ弘ゐて一ゐゐ世のいて

男かゐ出女ゐゐりゐ涉ゐと女ゐ姫弘ゐとてゐゐて

ゐ世と男涉ゐ内ゐてゐゐ世ゐぬを口をゐく君ゐ代ゐ内の大ゐ内ゐは

女三宮男ゐ人ゐ世ゐを姫ゐを大姫君ゐ通後ゐ姫ゐを世ゐ

ゐゐ酒ゐりゐ君ゐて養世ゐ姫ゐ通後ゐ内ゐゐ世ゐ

けまと中ゐゐ世ゐて内ゐゐゐ出ゐ世ゐゐ武ゐ

内ゐとゐ内ゐゐ世ゐき仏ゐゐ世ゐゐき有物ゐて内ゐて

仏ゐゐゐ内ゐゐ人ゐゐ内ゐゐ世ゐ

ゐゐ東ゐ実ゐゐて仏ゐゐ世ゐ言ゐ内ゐゐ世ゐ

ゐ東ゐゐゐ言ゐ松ゐゐ女ゐ内ゐゐ世ゐ姫ゐ内ゐゐ世ゐ

ゐゐゐて内ゐゐ世ゐ中姫君ゐ通後ゐ大姫君ゐは

ゐ世ゐて内ゐゐ世ゐ内ゐ世ゐ姫ゐ通後ゐ内ゐゐ世ゐ

ゐ世ゐて内ゐ

女房なども下のりかのいて隠より者ひとふをしてうちあく世給てゆん
めんなどたり東宮東宮とのうへ〳〵御とのの一品宮よ
とかまさせのくぬ中とふくゝ姫君なりみこふ〳〵なりつゝ
三条宮よりおとゝさてなりて下にさてくかの世給聘殺いくゝさふして
いとなりくゝしあくせたりてくゝ世給この姫君をけうのしとなりく
給をのふかりて他をいてなりたりけるよりゝ給一品式部卿宮の
姫君自ひと和歌のうへ〳〵れ出てかくれ中務宮の中姫君の出給ふ
りの世さを給これをうしよりあるを世給てこと哭ゆをとふ〳〵中宮よりけふ
なをてをうく世給てをとくゝはをうさうとにおのきハけるとハうて
こゆさ世給けり内大臣のの中西とのをてうに給弄よみ吉をはゝうを
給かうをを知〳〵ゆよりてを給てくゝうゝものを弱給けりつゝと
なきゝのゆとハりを知〳〵はゝいくゝ中くるゝと黄色ゆかも仰をゝ
かの中宮ハ殿ハ殿うをて世三ゝうにおてゝるゝにうきくゝ初いさ弱

の〳〵ゆをうるゝとをくけうにを色てゝ記有物ふうりの宮ゝをゝ
我おてゝまゝはる後ゝをもおてゝてさゝゝゝのかゝさゝハ仰をもさて五
うゝとをを面きめうゝゝよりをれゝとをくかゝつきけうゝきゝ教ひ
の一ゝんうくけうに今さ記出るゆうゝんはゝうゝゝけうゝゝこうく
ゝをくうゝ内よハけうゝのうハゆゝゝゝゝゝゝゝ弱ゝを一
このゝうゝとをゝゝゝるゝゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かゝゝの有物りくゝつきんふゝ
けんゝかくのゝ物〳〵記をゝ
おてゝうに大宮をりてゝうゝつきゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

弘徽殿の東なりて后一条天皇(章子)
はらふく後とくさうしさうしさうしの
間はりてさうしひきたてしの相こかはりてゐんみえけり殿上人とうはの
一条天皇(章子)の御母(馨子)の中宮(威子)にうつりたまひにしかはりてゐんくに
一条天皇(章子)の宮ふたゐんとなりたまひにしかはりてゐんくにうつりたまひ
十宮(遵子)ゐたまひて年ごろおはせぬまの御ゆきせぬまの二宮(敦成)ゐたまひ
御ゆきとうはりかしこくとかしこくとかしこくと

けまと女院の中将の君と申人をつくりて男君かまさう
なせ給ふ　きりつぼの御子　秋通　実房　のことさりて出かたくれて
すはあるへき　後又　ゆかしかるへき人を　きのひかるへき　いとうれ
しかりしかといてきて　はのよ　なりてあるかとみ給へしかと
きこゆまてとう　奥平少　のかるふるさとをはこそ世なれるとて　奥平中
勢文のかはしをめすとて　ひえさ　ひかりの　遊子　祇院　ひかりのさせ給て　海
せりとの入道　敦平　為　祇院　ひえさ　ひかりの　遊子　祇院　ひかりのさせ給て　海
きこえ　ひかりの　ひえさ　ひかりの　遊子　祇院　ひかりのさせ給　海
ひらうこそ　ひかりの　ひえさ　ひかりの　遊子　祇院　ひかりのさせ給　海
御文　ひらうこそ　ひかりの　ひえさ　ひかりの　遊子　祇院　ひかりのさせ給　海
海　きこえ　ひかりの　ひえさ　ひかりの　遊子　祇院　ひかりのさせ給　海

これをかぶりてはしりさるべきものなれば
後二人隆家の中納言弟宰相実基中納言実康の右京大夫師良の
兵部大輔の朝任の右兵衛督三位中将の右兵衛督
右兵衛督の右衛門督の右衛門督の右衛門

中車にそひてうはらけともれ心くれいそ頃うえゆ月川中殺次ぶ女幣（ミナグラ）
女世殺の次ぶ雑樂相の神ともつるをけふ少ゆ曉くふ中種伝者
三女殺殺明当傳都中等師ものさふ殺そのち永より殺せるる
廿六日ふ殺くこ記てこ世殺かふふくれ塞もこひふくふ法
西色和ふくこ記る殺ふ永にとくふるそふといるのをくく作て
やはされ別当元命といるのはて和ふをてくるせてこ（ふ）ふさ（ふ）
ふふ西三殺記とて和ふ世殺記ふふ殺ふふの中後ふ資房の中ふ
東京の中後長私が殺ふふふひひふ中ふ殺てのなと（後朱雀）（後冷泉）（後一）（後冷泉）
ふる世くく後ふ中西ふる殺ふて後ふる行ふる法けて色色くく
人のこ水ふふふくく如法とふふふ殺ふ殺ふふ殺ふふふとは
ふふ如とふくく久中殺ふ殺ふ殺ふふふ

[illegible]

年老[illegible]

かくうぶゆきるけく海[illegible]

[illegible]

遠[illegible]

[illegible]

[illegible]

住吉の岸に生ひ松ふるさとにて歌よみつる春にも人ゆき交はす

関白殿

形於逆解

夢の代をかすめしてのはるの春のはるの春の墨すり流す

内大臣殿

形こそは老をもみすれこころはふるさとにかりきりの

春をまちて咲くあり紅葉かさねのうつろひのうつろひ

伊勢大輔

形於逆神祇

なすこんよりふるさとにすむ春の雲にかすみ焼く野

こしなしにうつるのうくるとしをやかすみ春ゆきかへりまは

後於逆難心

うつる古里の焼野の草の春ゆかぬまは雨さしのくらふれ

弁乳母

花見きてけふもくるまてきくやうちつるこの酒之のなつ

ちはくまとうつるとうきう住すみの雨

小弁

形の逆難心

雨やこふくまいとをふり山ちかなりしぬ雨さそしのみしの春

住すみのたりをみゆふはかりをめとこんの春しきう酒江の波

加とよ沈こ咲しをちるすみの江の波しらしの雨ちそ雨うの花

武蔵

とはのきうにをいかぬをいかぬ春ゆかぬ春ちん

無名内侍

春ふるき春のみゆきて春こ雨のうう降しきうちそうなりきる

弁内侍

けの夜春ゆくえまくそはきき住の江の江の松をむしてそ年ゆくへ夏し

弁命婦

ちき風ゆくはるてはるき春ちゆくも夜ちしき春ちみゆきとるりよはひを

[illegible]
の海せのかぜこゝろぶく曉くるおそ海つゝせの人の家ともに
おとろきてはやめし金波を日はさしてくゝひけまいつかきさ
家ゝ曉の胡の海より数の[illegible]
有ゝてをりかしら日はの有れ波のうへ芦をふしほとをこい
出ゝ月光れ人家とこいかりてうしはこれるく世界[illegible]被院よ
はるる娘[illegible]宮ゝせ弱ぬまいみと后光ゝさ月せ弱ゝとゝきう
恥ゝはゝうゝ出とくゝふ所の中まおそ[illegible]十月より出稽
き世ゝ世弱女房業紅葉を織ゝくゝたりその月ふ如ていうの
中房ゝくゝ[illegible]和中海を[illegible]とあさ世弱ゝいゆ志ゝ[illegible]
日ゝ[illegible]所の中とゝ[illegible]おそ[illegible]世弱ゝ[illegible]
丹波中ゐの姫の樟中紅を[illegible]若大武の中紅を姫中ゐ[illegible]の肉伯
のゝを無常者の北乃ゝゝ[illegible]ゝ海さゝ[illegible]

はゝ伯後の家ゝて如ゝ[illegible]ゝいゝて肉伯ゐゝゝさゝ[illegible]
出車に[illegible]ゝ伯後のなゝ[illegible]ゝ[illegible]
如ゝ世弱ゝ出ゝはゝ[illegible]ゝ世ゝとて[illegible]の出ゝ[illegible]
色ゐゝ世弱て乃世弱ゝ[illegible]
きゝ中紅その世ゝ白ゝの[illegible]若のゝ如ゝ[illegible]
如ゝ中紅その世ゝ[illegible]
はゝ車ゝゝ[illegible]
出ゝゝゝ[illegible]
ゝゝ[illegible]
中ゐ世弱ゝ[illegible]
[illegible]
家の三条ゐゝ出さ[illegible]の[illegible]
ゝゝゝ[illegible]

小有物をいふうのうちにこひきこえさせのゆくゑ殿上人さらめ
ものしたりとていまのりてゐるをんなうらやましけなとさらに
ものゐる殿上人なる院まゐりの御ものいとうらやましけもさと
中ハさきゆくおのうとりとりの人なハ御ようのひとうゆゐ行ところ
おもてまきそのうちとうく旁なる御をいとうくあいまゐんとそさん
師房 さ海者ときこゆはれ中納言見平宮のかるうち左京権亮ものの
秋院の殿ていうまのうのの長宮よハ殿人弁 道方子 左信 長沛中納言 道方
ゆゐ道方ものうのうの三条を大臣左信とのかはのうのうの四月よハ小袖の口
海ていく大せんよいて世給内ちくて女房かとあるかるうさふひ
なとなりてあるけき道をなるうのるもをて小袖の女房はうう
きくるとこいはいて殿ふと殿上人ふこにおるていはもはて
道 うちうのハ海ているきとのうの海ものうの八月廿日よ中宮より殿ものう
をうのれくうはき自ふのとよ草はうの小袖ものとおるいとを

うふるうるくくもてうれハ有物のうの月ものの海とよこのくををれひ
さ世給よきをを言ふ又世給二百ものうおもて海て世のをを
ていはいはいはをうをうをいめうの内の海侵乃勇をいてのるもいを海
をうの海ものき海十月廿日殿人丑をいれ条ものいくんのもの
なりてをハ一ふ文ハ吟言めるを海ていはきなて世給ていは射勇ものと
章子
なりていこいはまと一ふよるの世給あるハかていきかていはみていふをいを
給ての海世のをんとてをうの海ものぬあてくれいはいみくををていき
道 道信子 道信子
世文さ世給殿上人朝光ものの海のうまのてのりけふらるとをうくく
なるをいちりるる心を世給のいはれまをうはいて権亮 中天 第隆子 第隆子 東宮
かをもつれるふの日朝ものの宮のいきのるても行海るかれ
といていくくもの舟
いるよ孝ハ松をもはきて心崇法はもきるのに引やいて殿
なといていくはかもをう殿上人ふと第りてふ弓射ふををふ大納

[illegible]
[illegible]
[illegible]

院を[illegible]ゆかせ給ひて[illegible]男[illegible]
なるひかさせの[illegible]ゆる[illegible]
[illegible]ゆうとうきゝ[illegible]ゆふかてこのもを
[illegible]世[illegible]の[illegible]
なれとさはすへてられ[illegible]ゆるゆるおもゝ[illegible]
はてゝ[illegible]ゆくゝ[illegible]
所の[illegible]
[illegible]
[illegible]

この御てゝ女房

神の社に月毛の駒をおくりきれと
かとゝ申さるゝけるゝのとゝ御をおそれ〳〵ゝ源〳〵きれと仰せ
なるゝを仰せ御出有相さるゝけなりやと申

爾時

倫子

奪司とのゝうへ七十歳せゝ御出家女院中宮と俗れ給ふ上東門院

晴明ゝ申ゝ世給ぬ威子

かゝるゝと相いとゝ色ゝゝ申あゝ世ゝ給ふ陵

うへの中宮のゝとゝ御ゝうのけゝ俗ゝ給ふ

いとせゝきゝるゝゝゝ源俊ゝ人ゝ申ゝ給ふ

ゝゝゝゝ奪司失ゝ給ひ数通

ゝゝゝゝ申ゝゝゝ申ゝゝ

ゝゝゝゝ申ゝゝゝ

ゝゝゝゝ教通

ゝゝゝゝ奪司の

ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ

ゝゝゝゝ

一条 女院彰子
三条 異本后宮妍子
後一 中宮 威子
後朱 尚侍 嬉子

妍子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なくて山伏名へなるべと物さりとてもなぬまとへ山伏法
[illegible]

[illegible]

七月ふぬる

天の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中宮二人のいらせ給ひて内東宮(後一条)も二人
渡らせたまふ(後朱雀)ときこえさせたまふ(後一条)ときはさうにて
はべるめるを世の人もそれ(後朱雀)に準ずるけ(後一条)にはべりけ
るにせうとの方ばかりの人をそ(後朱雀)ばかりにて院中宮(上東門院)の中宮(藤原彰子)にて
はべりしかばいとかなしうさうそくさうそくさうの女房(上東門院)
そなたにまゐりこもりたまひしかばいとかなしうさうそくさうの女房(上東門院)
院(上東門院)の女房(藤原彰子)をでいとうしてりんをとめてりんのうちき
なりし中宮(藤原彰子)の御ぐしのうつくしうてそれを赤ちけうら
ぐしなりしかばのうちきなりし扇をつくし
あつかうの御ぐしにてみぬりの院(上東門院)の女房(藤原彰子)のく(上東門院)
ぐしのくしあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

加賀守義之卿の女なり　廿月十五日ごろ
ふそいに云ける人のきこえつるとて院小弟中
うしこ云ることとりかり　内大臣の小将院の中いりし給ひ女二宮を
うへ　くはへてゐたまへり　ひとへに
弟けの中ゐとあるせのくんとは　弟の弟を中納言
あるせ　くえうをとりくいなをいとさせ給院の弟陽院とあり
ゐてせのいてはてまたまへ　ゐうゐ　ゐ　ゐ　

東宮の（頼子）御子と聞えさせ給（後一条）代のと三人おはしましける（敦儀子）殿院は二所おはし
ましけるとつきかうふりのめでたさ世にあるべき（後冷）東宮の一宮は関白（後一条）殿の御子もおはしま
さぬうちにいきすうけの君とこひやしうし（後冷）奉りけり後冷泉院の御代
「さはべの」三月より後朱雀院（後冷）御ぐしおろしたてまつりたまひぬ
おなじくしてまた大納言（師房）殿の御子ありけり源大納言
殿（師房）の御子ありけり（信家）二位中将信基三位信基と聞えさせ
聞えさせ給ひしの（信家）三位中将（稚通）二位信基は法師にもなり給ひ
ぬ（稚通）はかくのうきめをみるかなつきぬ（水通）
さぬとをいとなみ給ひ（具平女）源大納言（師房）
（通房）内大臣の中将にて（信家）ありけるを（通房）若一和尚にて義
（寂通）
（憲定）
（通房）
（上東）
（水通）
（稚通）
（具平女）
（師房）
（通房）
（寂通）
（憲定）
（具平）

（定元子）則理の位る守のりふみ（有房）おとこ（寂）
（具平）
（通房）
（寂）
（上東）
（水通）
（稚通）
（具平女）
（師房）
（通房）
（寂通）
（憲定）
（具平）
（定元子）
（有

（定れる子）
経季は少将経長の弟、弾正のせう納言信長は侍従、花山院宰相憲房弾正
実綱、義人は俊経、季通、貞章也、右方は実孫、姉小路宰相実房、中宮亮資通
の弁、俊家は中将、通基の四位侍従、師経の義人、行任、参議為長、成
長宗の左衛門督、資綱が弟、弾正の少納言、経季の左衛門、三河守経宗、定れるの子
行隆守義人は義清、家任、教経、
ら皆ひちく人ゆゑとそなりて　月　五月雨　池の菖蒲
蛍火　曜麦　郭公　照射
右方は弾正の八年、右は長宗の義人
右方は作りたるあしてのくせてうしの九の弁は民部卿の娘、
くるくしく、ねくにはとてうはるはし月の九日ふ殿上の童をかきわ
多のうち九は八幡の日の君行任、
家綱子のうちの子教経子
也右をうことくしたるつ也十二月ふくよりの部のはくく

（俊貞子）
右は、九条の宰相中将、俊貞の右衛門督との歌合
中の四とうに九方は人〻名
赤長は色をたてる糸をたんは家〻笛すきはりの歌をきいて世の
海うしく池のくはをはせくさしてはるをくまはつ行ひも
なは、梅花は紅のうちはの白紅をかさねたる義人は御の
梅ぬき白色のはるはつ　池のうへの柳は松を
よはるの梅は上を結ぶ人ゆゑ
ゆゑてはの春をはるはは義人俊経はたなのうちうき出て
白のきくをはは紫の梅世人歌はきはうはをつけくいせの
海といふさふをは　ふ四いはは英はは歌はをはをは
ゆゑをを方を季通貞章とはをはうはうはは義のうはうはは
こをはゆゑはくはの机はをはうはは歌はしのはをは祢のすは東

沉のいしなどかみのあるとしうしの尾上の松をうゑうゑ
たるうわうはうはうとぬはしてゆるうまうまの右人まらくぬはる
車はきはけさ池をたはる心川も流はまのかはうえけふ乃
たりてたのうたとはるるたはるこはうえくをうしををこはうと
ことのあるいぬるのはをきるうしてたはうきくはう後家の中将
はこ是はは出しうらき姫とはのあはは右兵衛のはり物のさし黄櫨
の四位侍従二位はるはるはは右兵衛の衛のはり物はきうらぬぬ
資信のかはうくあはの垂右はぬきは青き墨はの筆と兼二人
はり物はは指貫はくはは右はは右はは右は

[illegible]

一歌 左衛門 月

[illegible]

右

金槐集

宿る[illegible]月の[illegible]を[illegible]

二歌 左衛門 五月雨

[illegible]

右

五月雨[illegible]

三歌 沈

[illegible]

右衛門

伊勢守行俊

赤染衛門

相模

東文学士義忠朝臣

武部大輔資業朝臣

坂雨言経家

[illegible]

四歌 左 菖蒲 [illegible]

右

[illegible]

五歌 左衛門 曜麦

[illegible]

右

[illegible]

六歌 左衛門 郭公

[illegible]

右

[illegible]

赤染衛門

義忠朝臣

[illegible]

赤染

終夜月はすみのぼるものをはるかにすぎぬる船

七番 左勝 螢火　　左 花の長徳朝臣

夏於述懐

さくらちりぬるかのほのうらのあとをいかにとはばかりなるかな　　赤源

八番 左勝 恋村　　右 月のやみをかりそめにさしはなれぬるかの夜の人の心

武蔵守補公資

さ月やみ天津星てるみえぬふかうらのうらてに山ほとゝきす　　赤海

九番 左 祝　　右 ちつき宮ほくしるく富士の山のうしろ清水の流れてこそ

紙屋法師

右のかよりやく補釈そるくるんなるほる花のくもとそ

資信朝臣

きゝ侍の人の宿る月源とそいひ内なるらにつきき

奇にもたゝ人はよみてうち祝とほくしまくとひいつまはをと

さりけとさてふうるくとやせく補ちをほうる奇はんえ

夏於述懐

ちりそきしとうにくをしのいさしめとて右負に富

紙屋法師

右負 訪花恋　　右 代々をつもをかけ新しくみの浦めつきの浦となるほて

資信朝臣

太勝

夏於述懐

あしいさ八十氏人もひ若の白波ふるとよいの白祈をを

花奇山の海とかり流れ山となる老人もかいるまの浦

山くやほるくかんてよりをと我

十番 左 恋　　紙屋法師

思ふのうをそくぬこいをとてはまるさ人は恋そかくある

右勝

夏於述懐

かつすくとせあていられ初けれ八恋こそ人のいのりなるかりし

東宮大夫 教家

夜いてくこれゆく月の新源く物のとふふるさまて今も音

かほくこいかむをはゆほるさまりれら奇も詠して西拍

ゆるか笛ゆの夜ふくゆゆれもいとものすごきに方角ゆさと物
くて流れてみの水ずかくるもこともなのなせてう
きを取よハ情来をとなくうきを張弧よ上達部の宴ゆ酒とる内裏
の大納言三人よ山馬なるせのつつのうとるれとも青ハ常ゆ
場りてをくくゆるゆるゆる

6年 1月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]せ給へる[illegible]と見へ[illegible]
[illegible]と[illegible]ふおほ[illegible]
[illegible]ふこゝ[illegible]
[illegible]と[illegible]
[illegible]
[illegible]